

## 小都市議会通信

# まみのNEWS



田中まさみつ

希みが丘4丁目3-2

連絡先 0942-75-4881  
masa-tnk@d6.dion.ne.jp

私は、過去2回とも、子供の環境作りに関連した質問をしています。子供たちを取り巻く環境に目を向け

般  
問  
から

発行いたしております。市民の目で議会を監視する」と、これは大切なことだと思います。関心を持たれた方は、定例議会の議事録が公民館、図書館などに置かれてるので、一度、読まされますよ。

参りますのでよろしくお願ひいたします。さて、12月議会では、改選後3度目の一般質問をさせていただく事が出来ました。議会での内容は、広報の「市議会だより」に毎回掲載をされていますが、紙面の都合上、詳細が伝わりにくいので、マスメディアを議会報告を兼ねて

皆様、お世話になります。昨年12月の議会報告をお届けいたしました。昨年、初議席を頂き、市民の皆様に支えられながら、やつと9ヶ月がすぎ、ようやく、全体の流れを掴めた感じで、議会活動もなんとか、スムーズに行えるようになつてしまりました。今後も、皆様の付託を裏切ることなく、知識の習得と、議員活動の充実に、努力精進して

犯罪、殺人事件に至つては、子が親に手をかけ、親が子供を殺害する、最悪の状態です。今までこんな、重大事件は、そう多くはなかったはずです。いつからこんな風になってきたのか、どうしてこうなってきたのか、誰も答えが出せないまままた一つ、小さな命が犠牲になってしまいます。なぜ、大人は本気になつて立ち止がれないのか、毎日流れてくる情報に一時的な反応はするけど、いつもと変わらない生活を続けていく、こういった繰り返しによって、さらに、反応が悪くなる、マスメディアで取り上げられた情報には、反応するが、伝えられなくなると、忘れてしまう。伝えられないくなったものは、解決したわけではなく、山のように積み上げられていると思います。こんな風潮を作つてきたのは、社会全体の責任であり、その多くは政治の責任だと思います。これが

ら、どんな国に作り上げていくのか、どんな市にしていくのか、これもまた、選挙で選んでいただいた、若長、はじめ政治家の責任があると思います

12月議會報告



またまた、「公明党ひまわりグループ」の皆さんのお動報告を掲載します。昨年秋、小郡文化祭の七夕マーケットに出店をされました。三国校区を中心にボランティア活動をされている皆さんです。私も当日は皆さんと一緒に出店に参加させていただきました。身近な方々に声かけして集まってきた品々を楽しく販売させ

公明党ひまわりグループ  
フリーマーケット出店!

みると、子育て支援課として、独立した形で、課を置いているところが目立つが、私は、これから社会作りの上で、子育て支援が最優先の課題であると、思っています。これからは、子育て支援を含めた総合的な次世代育成支援を何処か責任もって推進していくのか明確にしていくことが大切だと思います。課の創設については、その課にどういう事業を位置づけていくかが大事で、各委

1月議会報告

ら、どんな国に作り上げていくのか、どんな市にしていくのか、これもまた、選挙で選んでいだいた、若長、はじめ政治家の責任であると思います

いたしました。商品は、1時間足らずで完売し皆で喜び！売上金は、後日皆さんと一緒に、あすてらすの障害者支援サポネットと郡へお届けいたしました。他にも、環境問題への取り組みとして「割り箸リサイクル」などへも積極的に活動を展開されてあるので、またの機会にご紹介をいたします。

アリゲル！

近隣市で4ヶ所ほど、気になるところがあったので、各担当課へ行つてきました。取り組み方の違いで、大きく違いが出てきています。最近の地方財政の悪化で、新たに施設の課を設けるのは、大変なことかも知れませんが、事務事業を見直し、枠組みを変えて、取組んでいければできないことはないと思います。現に、近隣のほとどの市町村に課が存在しています。後は、どういうよ

卷之三

A black and white line drawing of a woman with short dark hair, wearing a grey sweater, holding a baby in her arms. The baby is smiling and looking towards the right. The illustration is positioned at the top right of the page.

本草綱目

市政への要望や、ちょっと困っていること、皆様のご意見をお待ちしています。(^0^)/

次に、子育て支援センターの充実拡大も合わせて要望致しました。支援センターの役割は、乳幼児を抱える母親にとって、精神的な安全感をもたらし、問題解決への糸口を提供する大切な場所になっています。家族構成の変化で、在宅で子育てをする母親が、孤立し、育児に対する不安や育児イローテ、育児放棄、さらには幼児虐待へ走ってしまうケースさえ起っています。この現状は思った以上に深刻な問題です。今、本市の現在の支援事業は、2ヶ所の子育て支援センターとのびのび教室やのびのびオープンルームなどの出張サービスで、事業を行ってありますが、北部地域ではまだまだ足りていないようです。今後も、さらに支援事業の拡大を訴えて行きたいと思っています。（雅）